

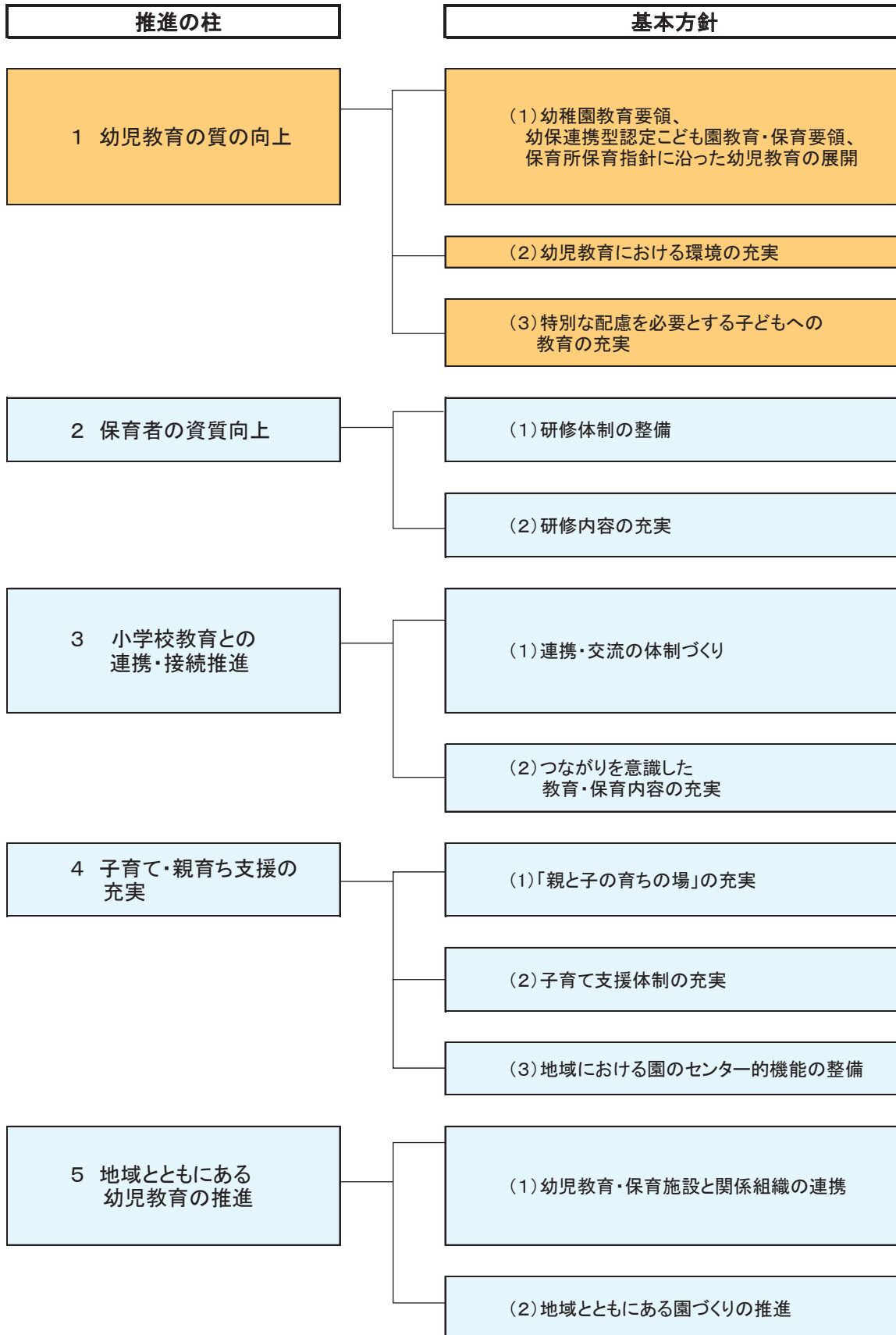
推進の柱 1

幼児教育の質の向上

質の高い
幼児教育



【体系表】





目標

- ① 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の内容の理解推進
- ② 教育・保育内容の充実
- ③ 自己評価を中心とした学校評価・園評価の活用・推進

- ① 幼児教育における環境の改善・整備

- ① 支援体制の整備・充実
- ② 個別の教育支援計画等の作成・活用及び関係機関との連携

- ① 体系的な研修計画の整備
- ② 計画的・組織的な研修の推進

- ① 専門性の向上のための研修の充実
- ② 幼保多様化に向けた研修の充実

- ① 幼稚園・認定こども園・保育所・小学校等の連携・接続の体制整備・充実 ～組織をつなぐ～
- ② 幼稚園・認定こども園・保育所・小学校教員等の連携・交流の推進 ～人をつなぐ～

- ① 接続カリキュラムの編成 ～教育をつなぐ～
- ② 地域における連携体制の整備 ～組織をつなぐ～

- ① 多様な場を活用した交流機会の提供
- ② 保護者の育ちを応援する学びの機会の充実
- ③ 親と子の生活習慣づくりの支援

- ① 関係機関と連携した子育て支援体制の充実
- ② 家庭や地域における子育て支援体制の充実

- ① 幼稚園・認定こども園・保育所等におけるセンター的機能の充実

- ① 連携体制の整備
- ② 市町村における幼児教育の充実に向けた政策プログラムの策定
- ③ 多様な幼児教育・保育施設の連携推進

- ① 地域資源の活用
- ② 子どもを支える地域づくり



1 幼児教育の質の向上

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担っています。その役割を十分に果たしていくために、市町村・設置者、幼稚園・認定こども園・保育所等並びに小学校等と連携しながら、更なる幼児教育の質の向上を図り、「遊びきる子ども」の育成をめざします。

基本方針（1）幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に沿った幼児教育の展開

目標① 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の内容の理解推進

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の趣旨や内容の理解を図り、子ども一人一人の発達の特性に合った教育・保育の推進をめざします。

【推進のための具体的な取組】

【県・県教育委員会】

- 市町村における幼児教育振興において、教育委員会と保育所管課が積極的な役割を果たせるよう、市町村との連携を密にした支援
- 県幼児教育センターを中心とした関係各課との協力体制の構築・情報共有
- 研修会の開催
 - ・幼稚園教育課程等研究協議会 等
- 幼稚園教育理解推進事業（中央協議会）へ幼稚園教諭等を派遣
- 担当指導主事・幼児教育支援員・幼児教育アドバイザー・保育専門員による園内研修の支援

【市町村・設置者】

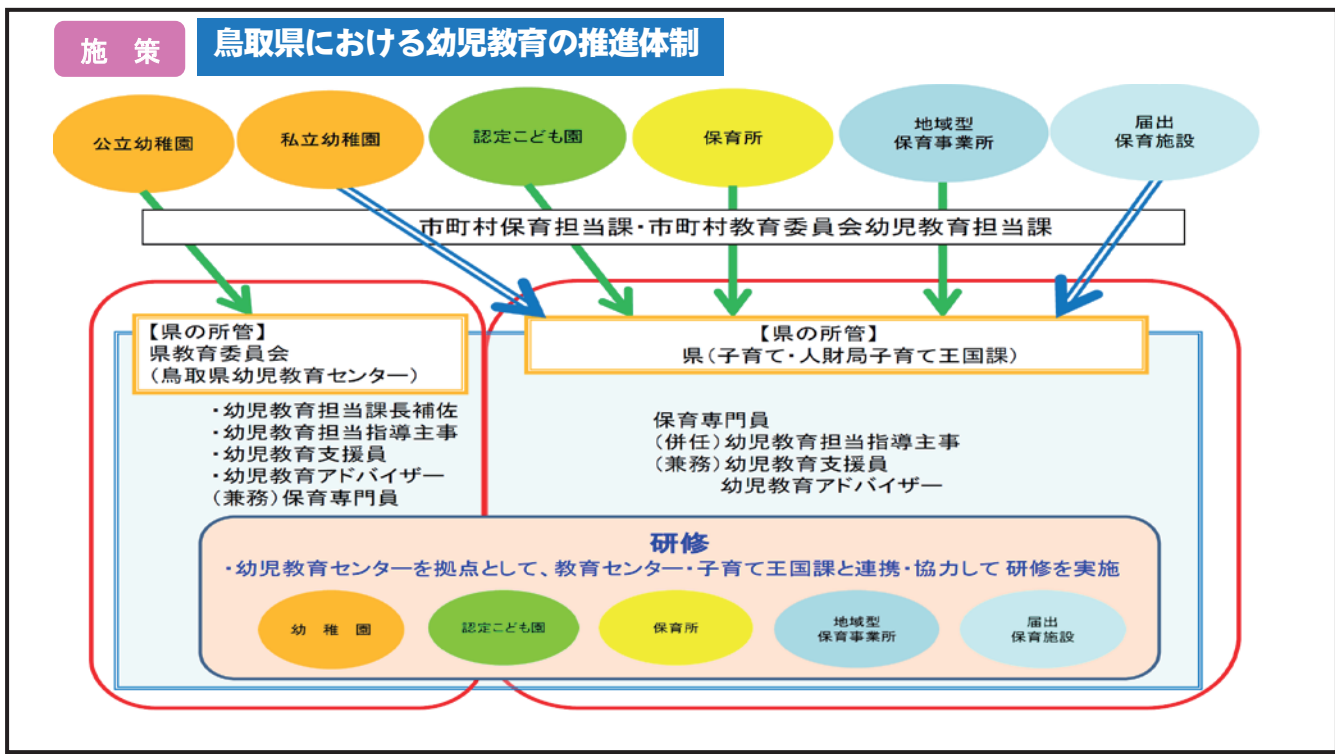
- 市町村の特色を生かした幼児教育振興に関する計画の策定を進めましょう。
- 教育委員会と保育所管課等の連携を密にし、市町村の現状に即した取組を支援しましょう。
- 研修会を開催しましょう。
- 保育者等が園内外の研修に参加できる体制づくりを進めましょう。
- 保護者や地域の人に、園で行っている教育・保育の内容について発信しましょう。

【幼稚園・認定こども園・保育所等】

- 育みたい資質・能力を明確にした全体的な計画や指導計画等を全保育者等で作成・編成し、幼児教育の質の向上を図りましょう。
- 保育者間の共通理解と協力体制を築き、教育・保育の充実を図りましょう。
- 幼児理解に基づいた評価を実施し、子ども一人一人のよさや可能性を把握し、指導の改善に生かすようにしましょう。
- 園の教育・保育目標や乳幼児期の育ちや学びについての情報発信を充実させましょう。
 - ・園だより ・ホームページ ・保育公開 ・掲示板の活用 等

【小学校等】

- 地域にある園との連携を通して、園で行っている教育・保育について理解しましょう。

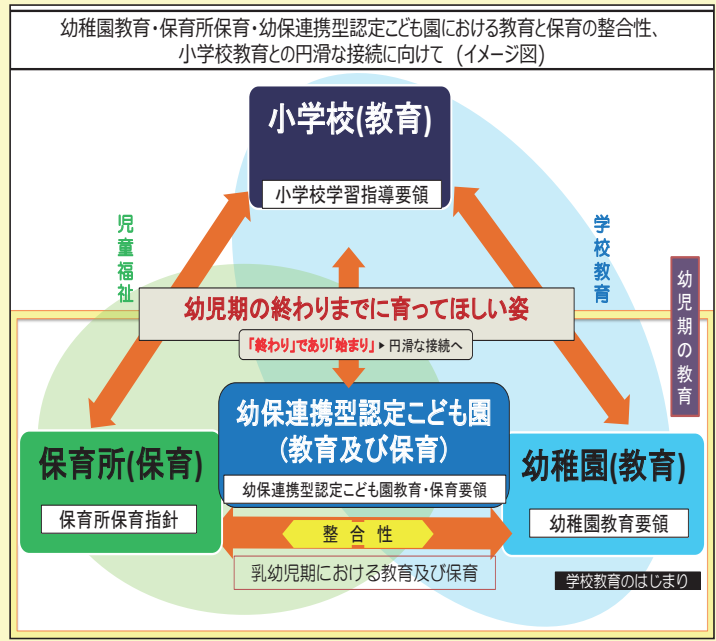


施策 「鳥取県幼児教育センター」による支援

「鳥取県幼児教育センター」を平成 29 年度に設立し、幼児教育担当指導主事と幼児教育支援員・幼児教育アドバイザー・保育専門員が配置されています。各種研修会の企画・運営や園訪問等を通して、園の現状と課題の把握、園内研修支援、小学校等との連携・接続の推進、情報提供など、各園、地域、市町村の実態に応じた支援を行っています。

詳細は「第V章」参照

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針改訂(定)内容



幼稚園教育において育みたい資質・能力

○ 各学校段階及び全ての教科等について共通する、育成を目指す資質・能力を明確化

○ 資質・能力の三つの柱として整理

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養

○ 幼児教育段階では、三つの柱を下図のように整理。この資質・能力は幼稚園教育要領の5領域の枠組において育むことができるため、5領域は引き続き維持

なお、幼児教育の特性から、これらは個別に取り出して身に付けさせるものではなく、遊びを通しての総合的な指導を行う中で、一体的に育んでいくことが重要

環境を通して行う教育

知識及び技能の基礎
(豊かな体験を通して、知識が自ら感じたり、身についたり、分かったり、できるようになったりすること)

思考力、判断力、表現力等の基礎
(実行したことやできるようになったことなどを思い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりすること)

遊びを通しての総合的な指導

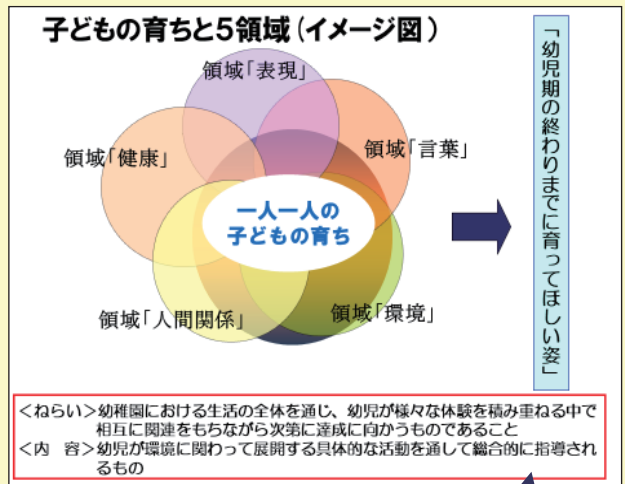
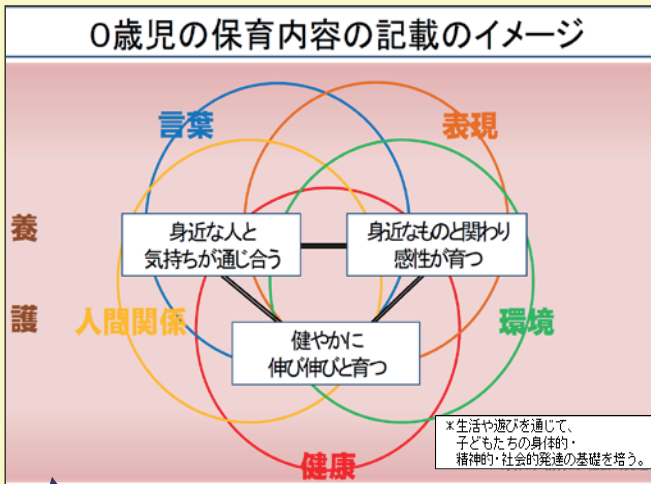
学びに向かう力、人間性等
(心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとすること)

平成 30 年度に全面実施となり、幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育所における教育内容等の更なる整合性が図られ、「幼児期において育みたい資質・能力」の明確化、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、全体的な計画や指導計画等を作成・編成するなど、教育・保育の質をより高めていくこと等が明記されています。

「H30 鳥取県幼稚園教育課程等研究協議会」文部科学省幼児教育調査官資料



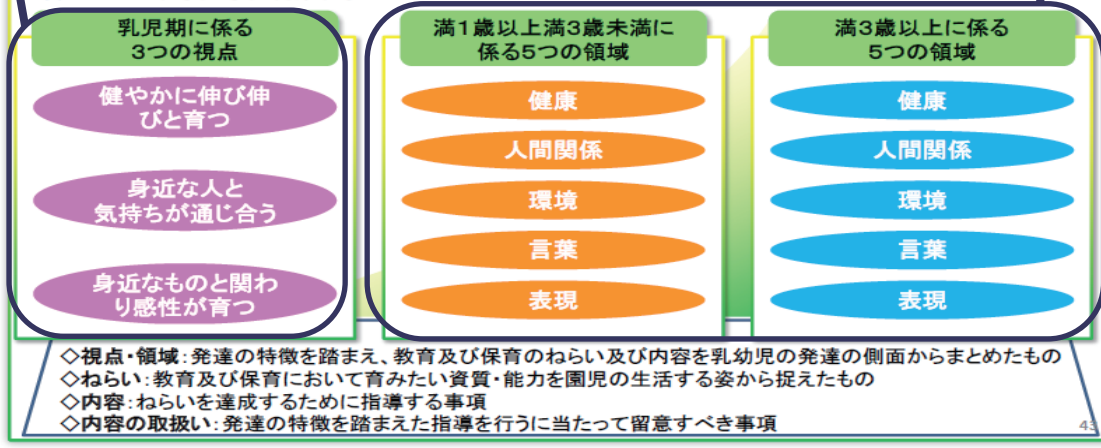
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針 改訂(定)内容



第2章 「ねらい及び内容並びに配慮事項」の改訂の要点-2

第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項の改善・充実

- 乳児期及び満1歳以上満3歳未満の園児の各時期の発達の特徴を示し、それぞれの保育のねらい及び内容を乳幼児の発達の側面から視点と領域としてまとめ、新たに記載。
- 満3歳以上の園児の教育及び保育に関し、近年の子どもの育ちをめぐる環境の変化等を踏まえ、教育及び保育の内容等を改善・充実。
- 乳幼児期、満1歳以上満3歳未満の各時期及びその他教育及び保育の全般における配慮すべき事項について、それぞれ明確化。



「H29中央説明会」資料

幼児期の教育における見方・考え方

教師は、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方を生かし、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。



「幼稚園教育要領」

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、保育者が念頭におくこと

- ①一人一人の幼児の体験を理解しようと努めること。
- ②幼児の体験を教師が共有するように努め、共感すること。
- ③ある体験からどのような興味や関心が幼児の心に生じてきたかを理解すること。
- ④ある体験から幼児が何を学んだのかを理解すること。
- ⑤入園から修了までの幼稚園生活の中で、ある時期の体験が後の時期のどのような体験とつながり得るのかを考えること。



「幼稚園教育要領解説」

POINT

遊びや生活の中で様々な環境と関わり、豊かな体験を通して「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力が育まれていきます。その際、心動かされる体験を準備し、集団生活の中で、子どもたち同士の関わりが深まるように配慮していくことが大切です。そのことにより、子どもの体験がつながりを持ち、学びがより豊かになっていきます。

幼児理解に基づいた評価

- 指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進め、幼児一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにすること。その際、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評価によって捉えるものではないことに留意すること。
- 評価の妥当性や信頼性が高められるよう創意工夫を行い、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、次年度又は小学校等にその内容が適切に引き継がれるようにすること。

「幼稚園教育要領解説」



POINT

日々の記録やエピソード、写真などの子どもの評価の参考となる情報を生かしながら評価を行ったり、複数の保育者等で一人一人のよさを捉えたりして、より多面的に子どもを捉える工夫が必要です。

基本方針（１）幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に沿った幼児教育の展開

目標② 教育・保育内容の充実

乳幼児期にふさわしい生活や遊びを通して、「遊びきる子ども」を育てるために、教育・保育内容の充実を図ります。

【推進のための具体的な取組】

【県・県教育委員会】

- 全体的な計画、指導計画等の作成・編成、活用等、カリキュラム・マネジメントの確立のための支援
- 担当指導主事・幼児教育支援員・幼児教育アドバイザー・保育専門員による園内研修の支援
- 県幼児教育センターと県子育て王国課との連携による研修内容の充実
- 幼稚園・認定こども園・保育所等の相互理解の推進
 - ・幼保一体化における幼児教育・保育相互理解研修の実施
- 人権尊重の視点からの取組の推進
- 運動遊びの機会の提供、情報発信
- 鳥取の豊かな自然環境を生かした幼児教育の推進

【市町村・設置者】

- 計画的に市町村や園の実態・課題に応じた研修会を開催しましょう。
- 計画的・継続的な園訪問による支援・助言を行いましょ。

【幼稚園・認定こども園・保育所等】

- 遊びを通して総合的な発達が実現していくよう全体的な計画、指導計画等に基づいた教育・保育の実践をしましょう。
- 自園の教育目標及び実態に基づき、全体的な計画、指導計画等を組織的・計画的に全保育者で作成し、カリキュラム・マネジメントを確立させましょう。
- 全体的な計画、指導計画等を絶えず見直し、改善し、教育・保育の質の向上に努めましょう。
- 園内の研修体制づくりをしましょう。
- 公開保育や事例検討会等の園内研修を積極的に実施しましょう。
- めざす子どもの姿を地域の小学校等と共有し、子どもの育ちを見通した教育・保育を行いましょ。
- 人権尊重の理念について十分理解し、子どもが自らの大切さを認められていることを実感できる環境づくりに努めましょう。

【小学校等】

- 地域にある園の保育参観・保育体験等の機会等を通じて、遊びを中心とした乳幼児の育ちと学びについて理解をし、教育に生かしましょう。

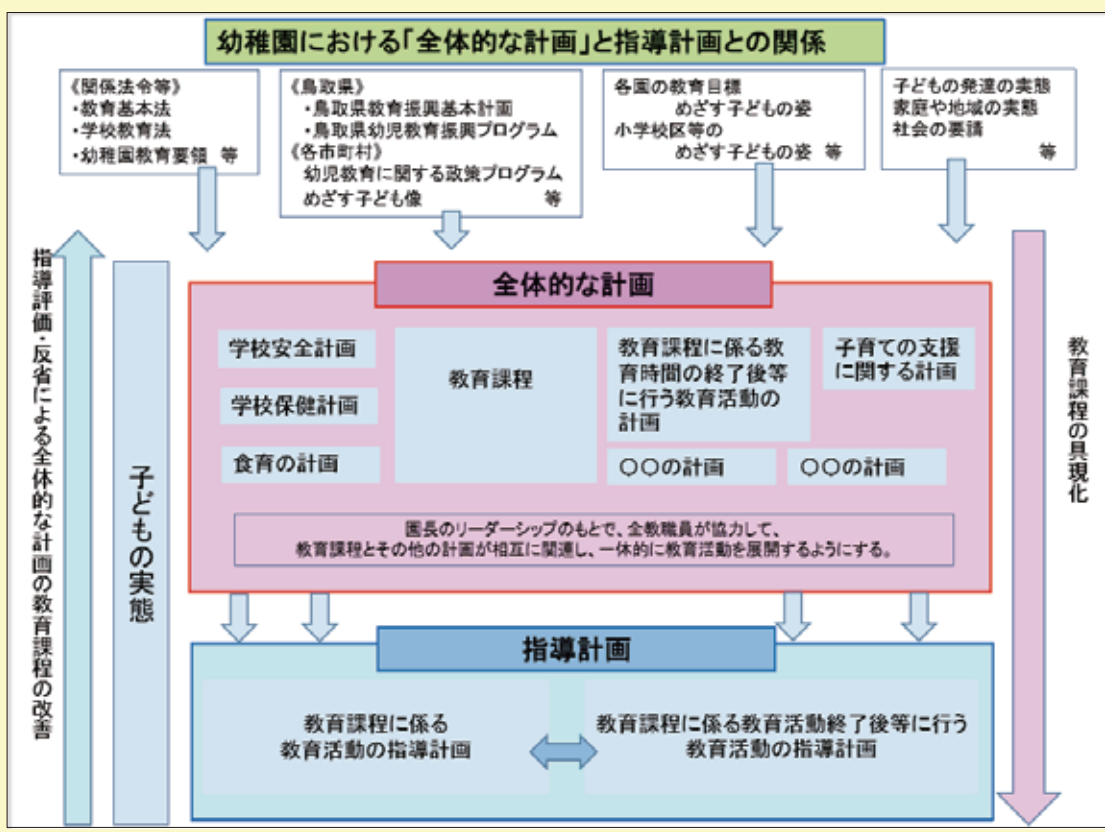


全体的な計画の作成及びカリキュラム・マネジメントの実施・確立

幼稚園教育要領解説に示された内容

幼稚園の教育活動の質向上のために、教育課程を中心にして**全体的な計画**を作成することを通して、各計画の位置付けや範囲、各計画間の有機的なつながりを明確化することができ、一体的な幼稚園運営につながります。

また、全体的な計画にも留意しながら「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて教育課程を編成すること、教育課程の実施に必要な人的または物的な体制を確保して改善を図っていくことなどを通して、各幼稚園の教育課程に基づき、全教職員の協力体制の下、**組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメント**を実施することが求められています。



【人権尊重の視点の取組】

幼児期における人権教育実践上のポイント

- 幼児が自らの大切さを認められていることを実感できる環境づくりに努める。
- 自分を大切にできる感情とともに、他の人のことも思いやれるような社会的共感能力の基礎を育むという視点を大切にする。
- 保育者自らの人権意識を絶えず見つけ直すなど、確かな人権感覚が身に付けられるよう、常に自己研鑽を積む必要がある。

「鳥取県新規採用幼稚園・幼保連携型認定こども園教員研修ハンドブック」

施策 鳥取の自然を生かした幼児教育の展開



平成 29 年度、鳥取県の豊かな自然を活用し、自然体験活動を行う園を認証する「とっとり自然保育認証制度」を創設し、22 園を認証しています。(H31. 4. 1 現在)

「遊びきる子ども」を育むために

学びの基礎づくり



乳幼児期は、身近な自然などの環境との触れ合いの中で、様々な事象に興味や関心をもつようになります。友達と一緒に試したり、工夫したりすることの楽しさや喜びを感じる体験を繰り返すことで、子どもは周囲の環境に好奇心や探究心をもって関わり、考えることの楽しさに気づき、自ら考えようとする気持ちが育っていきます。そして、試行錯誤しながらも諦めずにやり遂げることの達成感、充実感をもち、新たな遊びや課題にも挑戦しようとする意欲が育ちます。

また、子どもは、様々な経験を通して、心を揺さぶられて感動すると、感じたままを表そうとします。それを保育者に受け止められ、認められた安心感や自己肯定感をもつことで、表現することの楽しさや喜びを感じ、表現することへの意欲が高まります。経験したことや考えたことを自分なりの言葉で表現したり、相手の話す言葉を注意して聞いたりするなど、言葉による伝え合いを楽しめるよう言語活動の充実を図るよう努める必要があります。

具体的な取組

◆心が揺さぶられる体験の充実

- ・自然と触れ合う中で、好奇心・探究心を育成
- ・「なんだろう」「なぜかな」という問いが生まれる体験の保障
- ・子ども同士の関わりの中で、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わえる環境づくり
- ・社会とのつながりや国際理解の意識の芽生えなどを育む活動の充実

◆表現する過程を楽しめる工夫

- ・遊具や用具など、様々な素材や表現の仕方に親しめるような環境構成の工夫
- ・表現を楽しむ気持ちや表現しようとする意欲の育成
- ・友達との関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わう活動の蓄積
- ・失敗してもあきらめずに挑戦しようとする意欲の育成

◆言葉による伝え合い、言葉に対する感覚を豊かにする活動の工夫

- ・自分の感じたことや考えたことを言葉で伝えようとする意欲の育成
- ・人の話を注意して聞こうとする態度の育成

◆絵本や物語、童謡などに親しむ活動の充実

- ・地域に伝わる民話・伝統的な遊び、わらべうた・童謡唱歌などを取り入れた活動の工夫
- ・絵本や紙芝居の読み聞かせの充実



豊かな人間性の醸成



園生活においては、乳幼児と保育者との信頼関係を築くことが何より大切です。子どもたちは、その信頼関係を基盤にしなが、様々なことを試行錯誤し、自分の力で行うことの充実感や満足感を味わいます。また、保育者、同じクラスや異年齢の友達、地域の方等と触れ合うことを通して、人と関わることの楽しさを味わったり、きまりを守ることの気持ちよさや大切さに気付いたりしていきます。

そして、集団での生活や遊びの中で、保育者や友達から認められたり、褒められたり、励まされたりするなどの経験を積み重ねることにより、自分自身が大切な存在であると気付くとともに、他者を理解・尊重し、協同して遊びを進めることができるようになります。また、地域とのつながりを深める豊かな体験等をする中で道徳性の芽生えを培い、子どもたちが自他の価値を尊重し、夢や目標、主体的な学びへの意欲をもって生きていくことができるよう、「自己肯定感」を育むことが大切です。

- ※「自己肯定感」とは
- ・「自分の存在全てを受け入れ、自分を大切な存在である」と捉えることから生じる感情
 - ・「目標をもって、自らを高めようとする姿勢」から生じる感情であるとともに、「他者を理解・尊重することにより、自分も大切な存在である」と捉えることから生じる感情

具体的な取組

◆様々な人との関わりを深める活動の工夫

- ・地域の特色を生かした遊びを通じた地域の人々との交流
- ・異年齢の乳幼児、小・中・高校生、高齢者、外国籍の人との交流
- ・地域の特別支援学校、障がいのある幼児児童生徒、障がいのある方との交流及び共同学習の機会の提供
- ・協同する経験を積み重ねることの工夫

◆愛情や信頼関係、自己肯定感を育む援助

- ・失敗しても認めてもらえるという安心感のある受容的関わり

◆道徳性の芽生えを培う活動の充実

- ・発達段階に応じた集団遊びなどによる人との関わり合いを経験する活動の工夫
- ・葛藤やつまずきを体験し、乗り越えることにより、人に対する信頼感や思いやりの気持ちを育む活動への配慮
- ・遊びを通じた善悪の判断や友達への思いやりの心の育成

◆規範意識の芽生えを育む活動の充実

- ・体験を重ねながらきまりの必要性に気付き、自分の気持ちを調整する力の育成

◆生命を大切にする気持ちを養う活動の工夫

- ・身近な動植物に親しみをもって接し、生命の不思議さや尊さに気付いたり、命あるものを大切にしたりする気持ちを育む活動

◆自分とは異なる感情や表現の仕方があることに気付く体験の積み重ね

- ・自分の思いを言葉にすることの楽しさ、保育者や友達が話を聞いてくれることの喜びの体得
- ・相手が伝えようとしていることを注意して聞き、思いや考えを共有することを楽しむ活動の蓄積



鳥取聾学校幼稚部園児と
保育園児の交流及び共同学習

健康な体づくり



乳幼児期は、人間の生涯にわたる様々な場面において必要な運動のもとになる基本的な動きを幅広く獲得する非常に大切な時期です。そのため、遊びを通して、自分の体を十分に動かし、体を動かす心地よさを感じることを通して、進んで体を動かそうとする意欲を育てることが大切です。また、自分の体を大切にしたり、身のまわりを清潔にしたりするなど、生活に必要な習慣や態度を身に付けていくことも重要です。

具体的な取組

◆基本的な生活習慣の定着

- ・乳幼児の発達の課題と個に応じた目標の設定
- ・乳幼児の生活リズム、基本的な生活習慣の定着のための取組
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」、あいさつ等、家庭や地域の学校等と連携した取組

◆進んで体を動かす活動の充実

- ・十分に体を動かす心地よさの体験（1日合計60分を目安に）
- ・遊びに夢中になる中で多様な動きが身に付くような働きかけや環境づくり
- ・地域の自然環境を生かした外遊びの充実
- ・戸外での遊びの意欲を高める工夫や施設・環境の充実



◆食に関する活動の充実

- ・和やかな雰囲気、食べる楽しさ・喜び、様々な食べ物への興味・関心を高める活動
- ・家庭での食生活やアレルギーへの配慮、食べ物の大切さや感謝の気持ちを育むことへの配慮
- ・地域の食文化に触れる体験活動の工夫



夢中になって遊びこむ子どもたち ～「遊びきる子ども」をめざして～



基本方針（１）幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に沿った幼児教育の展開

目標③ 自己評価を中心とした学校評価・園評価の活用・推進

幼児教育の質の向上のために、実践を常に振り返り、教育・保育の充実・改善につながる評価の活用を推進します。

【推進のための具体的な取組】

【県・県教育委員会】

- 自己評価を中心とした学校評価・園評価（*）の活用・推進
 - ・評価のガイドラインの周知
（「幼稚園における学校評価ガイドライン」・「保育所における自己評価ガイドライン」）
 - ・研修会の開催
 - ・県が行う計画訪問の際の状況把握、支援・助言
 - ・担当指導主事、幼児教育アドバイザー、幼児教育支援員、保育専門員の園訪問による支援・助言
 - ・第三者評価受審への働きかけ、私立園に対する運営費の加算

【市町村・設置者】

- 各園における学校評価・園評価実施のための説明を行いましょ。
- 学校関係者評価、第三者評価を促進しましょ。
- 学校評価・園評価実施のための体制づくりと報告・公表を推進しましょ。
 - ・報告内容等に対する支援・助言及び園訪問による支援・助言

【幼稚園・認定こども園・保育所等】

- PDCAサイクルに基づいて積極的に学校評価・園評価を実施しましょ。
- 評価の結果について全保育者等で共通理解を図り、教育・保育の充実を図りましょ。
- 評価の結果を保護者や地域に公表・公開し、教育・保育の改善につなげましょ。
- 評価の結果に基づき、全体的な計画及び指導計画等の見直し、改善を行いましょ。

*園評価・・・保育所・小規模保育事業所等において、保育士等や保育所の自己評価、第三者評価の実施を通じて、保護者や地域住民等との協力体制を構築し、保育の質の向上を図る取組を表す。

自己評価を教育・保育の改善、質の向上につなぐために

幼稚園、認定こども園、保育所における評価

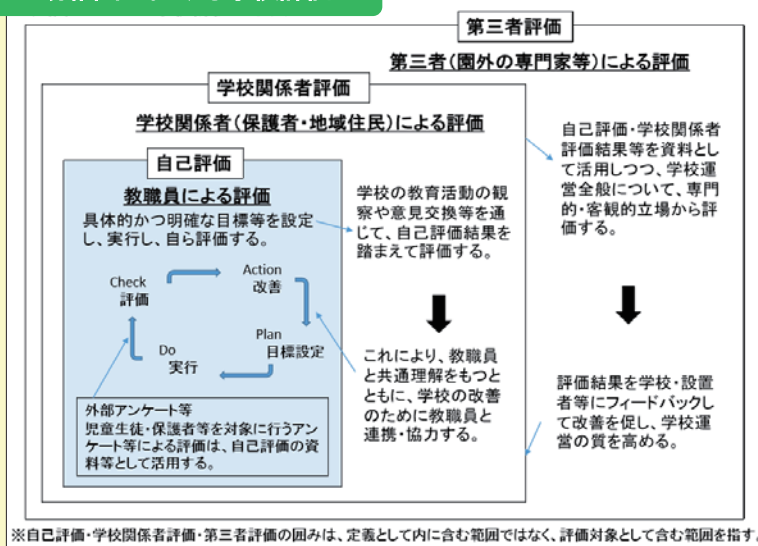
努力義務であっても、幼稚園における学校評価ガイドライン、保育所自己評価ガイドライン及び第三者評価共通評価基準ガイドライン（保育所解説版）、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領等に沿って積極的に評価を実施し、教育・保育の質の向上や運営の改善を図りましょう。

評価の区分と概要		幼稚園	認定こども園		保育所
			幼保連携型	幼保連携型以外	
自己評価	教育・保育の質や施設の方針・運営などについて自ら評価	教職員	設置者		保育士等、保育所 ※保育内容は、保護者や地域住民の意見を聴いて評価することが望ましい
	義務	実施・公表の義務	実施・公表の義務	実施の義務	実施・公表の努力義務
関係者評価	自己評価結果を評価することを基本とし、園運営の改善に向けた取組が適切か等を評価	保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会	保護者、関係者	/	
	義務	実施・公表の努力義務			
第三者評価	自己評価や関係者評価を踏まえつつ、外部の視点で評価	外部の専門家を中心とした専門家等	外部の者		評価機関
	義務	法令上の義務づけなし（「幼稚園における学校評価ガイドライン」による規定）		実施・公表の努力義務	

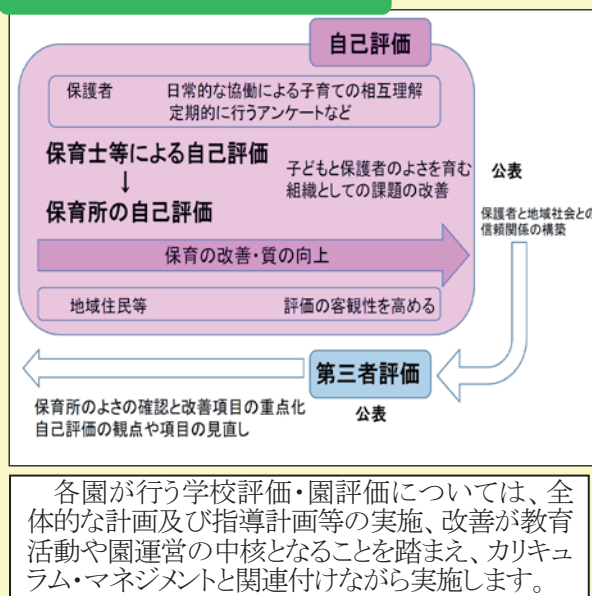
（R元. 11 現在）

PDCA サイクルに基づいた学校評価・園評価

幼稚園における学校評価



保育所における園評価



<出典>

- 「幼稚園における学校評価ガイドライン」【平成 23 年改訂】（平成 23 年 11 月 15 日 文部科学省）
- 「地域とともにある学校づくりと実効性の高い学校評価の推進について（報告）」（平成 24 年 3 月 12 日学校運営の改善の在り方等に関する調査研究協力者会議 学校評価の在り方に関する WG）
- 「保育所における自己評価ガイドライン」（平成 21 年 3 月 厚生労働省）

POINT

各園においては、自己評価等を通じて把握した課題に対する改善点等に対し、組織的に対応することが求められています。そのため、課題を園全体で共有し、全保育者等がそれぞれの専門性を生かし、協働して対応していくことで、実効性の高い学校評価・園評価の実施につながります。

基本方針（２） 幼児教育における環境の充実

目標① 幼児教育における環境の改善・整備

幼稚園・認定こども園・保育所等が、子どもの発達を促すための充実した場となるよう、幼児教育における環境の改善・整備に努めます。

【推進のための具体的な取組】

【県・県教育委員会】

- 「幼稚園設置基準」「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」に基づいた適切な教職員配置、施設整備の推進について、設置者への指導助言
- 「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」を上回る職員配置への支援による正規雇用の促進
- 幼児教育の質の向上や無償化等に係る国への要請（財政基盤の強化）
- 幼児教育に関する専門的なアドバイザー等の配置の推進
- 鳥取県保育士・保育所支援センターを中心とした保育士等の就業促進と離職防止対策の実施
- 施設の安全対策、耐震化に対する啓発
- 幼稚園・認定こども園・保育所等における自然環境を生かした教育・保育の推進

【市町村・設置者】

- 幼児教育の質の向上に向けて人的資源の確保・充実に努めましょう。
 - ・幼児教育担当の指導主事、保育リーダー等の配置
 - ・園の実情に応じた正職員及び加配保育士等の確保・配置
- 「幼稚園設置基準」「幼稚園施設整備指針」「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」に基づいて、施設・設備、園具・教具等の状況の点検・整備に努めましょう。
- 安心・安全な園づくりに努めましょう。
 - ・耐震診断や耐震補強の実施
 - ・防犯、災害等の安全対策の実施
- 子どもの主体的な活動が確保される施設の整備に努めましょう。

【幼稚園・認定こども園・保育所等】

- 講師・非常勤職員と正職員の役割を適切に分担し、働きやすい環境づくりに努めましょう。
- 保育者等の様々な勤務形態を踏まえ、全保育者等の連携・協力体制を整えましょう。
- 組織マネジメントを通して、保育者等の力が最大限に発揮できる人的配置を心がけましょう。
- 子どもの主体的な活動が確保されるよう園内外の環境を工夫しましょう。
- 安心・安全な園づくりをめざし、日常的な安全点検に心がけるとともに、防犯・災害等に対する訓練を計画的に進めましょう。
- 遊びを通して、安全についての構えを身に付けさせ（*）、災害時などの緊急時に適切な行動がとれることを意識した保育を行いましょ。
- 園内外の自然環境を活用した体験活動を積極的に取り入れましょう。
 - ・園外活動等に際する事前の下見や安全点検の実施
- 子どもの主体的な活動を確保し、遊びを豊かにするための環境の構成を大切にしましょう。

*安全についての構えを身に付ける・・・幼児が自分で状況に応じて機敏に体を動かし、危険を回避するようになることとであり、安全な方法で行動をとろうとするようになること

施策

鳥取県保育士・保育所支援センターの取組

- 新たな保育人材の確保
 - ・保育士支援コーディネーターによる就職相談支援（就職相談、職場体験・見学同行）
 - ・再就職支援セミナー、養成校ガイダンスの開催
 - ・求人情報や研修情報の案内
- 現職の離職防止
 - ・保育従事者向けの相談窓口の設置
 - ・職場の定着向上に向けた取組の促進（エルダー制度の普及）
 - ・各施設訪問、業務改善提案

鳥取県保育士・保育所支援センターがあなたをサポートします

「保育士として再就職したいがブランクがある…」
「子育てと両立できるか不安…」などの理由で悩んでいる方、
保育の仕事に興味がある方の相談に専任職員が応じます。

知って
保育士等就職支援セミナー

最新の保育動向の解説や保育の仕事の楽しさ、やりがいについて就職保育士からお話が聞けます。

見て
職場体験・見学同行

就職前に、職場体験や見学をして働く雰囲気や、保育の現場の様子が分ると安心！見学同行や、園との日程調整などきめ細かい就職支援を行います。

感じて
就職フェアの開催

関係エリアの事業所が多く参加し、採用担当者から直接働き先の子などを聞くことができます。ブランクのある保育士さんから学生さんまで、誰でも参加OK！就職に役立つ情報満載です。

現職の方もサポート！
保育従事者相談窓口

子どもの可愛さに癒されつつも、日々の忙しさに疲れている、人間関係がしんどい等、一人で悩まず・抱え込まず話して楽になりましょう。不安や悩みを相談してください。安心して働き続けていくことができるよう応援します。

就職にかかる費用もサポート！
就職準備金・保育料貸付制度

- 保育士として、新たに保育所等で週20時間以上勤務する際に利用できます。
- 県内の保育所等に就職される際に必要な費用（1人1回40万円以内）や保育料等の一部貸付等もご利用ください。
- すべての貸付において当該保育所等にて2年間、勤務すると返還免除となります。

【安心・安全な園づくり】

園生活が子どもたちにとって安全であるように、施設設備の整備及び安全点検に努め、安全に落ち着いて遊ぶことのできるように環境を工夫していきましょう。また、あらゆる災害・事故等を想定した訓練等を実施したり、「避難確保計画」や園周辺のマップ等を作成したりして、園の安全確保に努めましょう。

＜施設整備の工夫例＞

- 棚やロッカーなどの転倒防止・固定。備品の落下防止。
- 安全点検の徹底。設備等の改善。緊急時110番通報システムの導入。
- 避難経路の確保。玄関の施錠。施設内外の見回り。
- ガラスに飛沫シートの貼付。防犯カメラの設置・増設。
- 避難準備物の確保。
(避難用の外履き、防災頭巾、ライフジャケット、ヘルメット、簡易テント、ブルーシート、クラス用非常持出し袋、非常食 等)



小学校や地域の方との合同避難訓練

地域の自治会作成の避難マップに、要支援者として園が位置付けられています。避難訓練では、地域の方が園児を避難所に誘導します。



地域の方との合同避難訓練

地域のマップの中に、交通量が多いところ、横断歩道などを示し、安全に散歩等ができるようにしています。また、安心して遊べる場所をマップに記しています。



子どもと作成した園周辺のマップ

安全に関する指導の充実

情緒の安定を図り、遊びを通して安全についての構えを身に付け、危険な場所や事物などが分かり、安全についての理解を深めるようにすること。また、交通安全の習慣を身に付けるようにするとともに、避難訓練などを通して、災害などの緊急時に適切な行動がとれるようにすること。

「幼稚園教育要領解説」

POINT

日常生活の中で十分に体を動かして遊ぶことを楽しみ、その中で危険なことを知ったり、そのときにどうしたらよいか体験を通して考えたりできるように、保育者が促していくことが大切です。

また、子どもたちが自らの命を自らで守ることができるよう、避難訓練を年間指導の中に計画的に位置付けるとともに、園のある地域の特徴を理解し、それに対応した指導を日常的に意識して積み重ねていくことが重要です。

基本方針（３）特別な配慮を必要とする子どもへの教育の充実

目標① 支援体制の整備・充実

特別な配慮を必要とする子どもの「切れ目のない」支援の充実を図るために、園内外の支援体制整備を進めます。

【推進のための具体的な取組】

【県・県教育委員会】

- 研修会の開催
 - ・園内委員会の設置や特別支援教育担当の役割の明確化
- 関係機関・専門機関との連携
 - ・医療的ケア児等コーディネーターの養成
- 特別支援教育に関する教員・保育士等の知識・技能・指導力の向上
 - ・市町村の発達障がい支援体制の中核を担う人材の育成・活用
- 教育相談等の推進
 - （特別支援学校の特別支援教育コーディネーター、LD等専門員、専門相談員、巡回支援専門員 等）
- 医療的ケア実施体制の整備
 - ・医療的ケア関係者による会議、研修会の開催等
- 「鳥取県民みんなで進める障がい者が暮らしやすい社会づくり条例（通称：あいサポート条例）」の制定、あいサポート運動の普及
- 「鳥取県手話言語条例」に基づく事業推進、手話を学習するための取組の推進
- 日本語の理解に不安がある外国籍等の子ども及び保護者に対する支援

【市町村・設置者】

- 地域における教育・医療・保健・福祉・労働等の関係部局・機関との連携協力を円滑にするためのネットワークを構築しましょう。
- 相談・支援に関わる情報提供機能を充実させましょう。
- 幼稚園・認定こども園・保育所等への体制整備に係る助言を行いましょ。
- ・園内委員会の設置や役割、特別支援教育担当に関する指導助言等
- 乳幼児健診や巡回相談等を活用し、専門機関や関係機関と連携しましょう。
- 巡回支援専門員等の整備を検討しましょう。
- 医療的ケアの必要な子どもへの支援体制を整えましょう。
- 合理的配慮の提供等により、きめ細やかな支援ができる体制を整えましょう。
- 基礎的環境整備の充実を図りましょう。
- 教育相談を積極的に活用しましょう。
 - （特別支援学校、LD等専門員、いじめ・不登校総合対策センター等）
- 特別支援教育に関する理解啓発を図りましょう。
- 日本語の理解に不安がある外国籍等の子ども及び保護者に対する支援を行いましょ。



特別な配慮を必要とする子どもへの指導

幼稚園教育要領に新たに示された内容

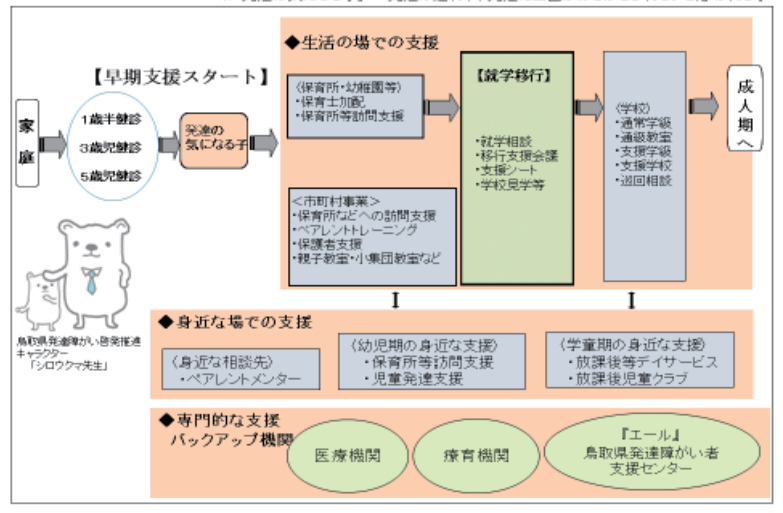
- ・障害のある幼児などへの指導に当たっては、長期的な視点で幼児への教育的支援を行うための個別的教育支援計画と、個別の指導計画を作成し、活用することに努めること
- ・海外から帰国した幼児や生活に必要な日本語の習得に困難のある幼児については、個々の幼児の実態に応じ、指導内容の工夫を組織的かつ計画的に行うこと

「幼稚園教育要領」

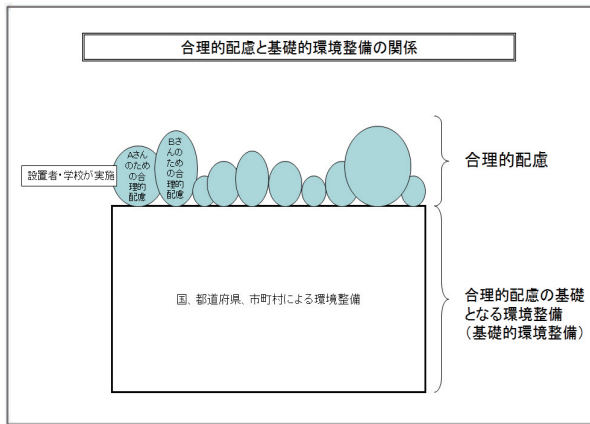
施策

発達の気になる子どもへの支援体制整備

※「発達の気になる子」…発達の遅れや、発達に凸凹があるかもしれないと思われる子



「合理的配慮」と「基礎的環境整備」



「合理的配慮」

「障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享受・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて学校教育を行う場合に個別に必要とされるもの」

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」(H24.7)



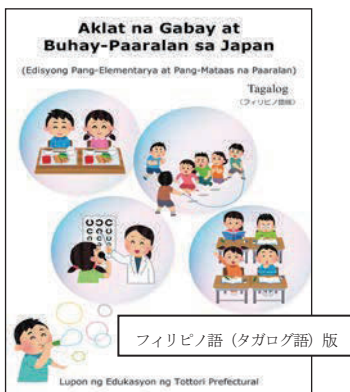
POINT

園に在籍している障がいのある子どもだけでなく、障がいのある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むよう努めることが大切です。

施策

日本語の理解に不安がある外国籍等の子ども及び保護者への支援

学校生活ガイドブック



- 日本の学校制度
 - 就学前教育について
 - 初等・中等教育について
 - 高等教育について
- 就学手続き等について
- 教育内容について
 - 教育課程（カリキュラム）
 - その他の教育活動について
- 進級・進学について
- 教育費について
- 就学費の援助等について
 - 就学支援（小・中学生）
 - 参考 奨学金、授業料減免制度（高校・大学生等）
- 主な年間行事の例
- 学校の日
- 学校でのきまり
- 学校紹介（小学校）
 - 登下校について
 - 所属について
 - 服装や持ち物について
 - 給食について
 - 掃除について
 - 学校諸会計について
 - 必要な書類の提出について
 - 学習することについて
 - 日課表
 - 時間割
 - お知らせ

一部抜粋

外国籍の保護者に対して、義務教育諸学校の学校生活の状況を案内するもので、9か国語10言語に翻訳しています。



県内3か所の「鳥取県国際交流財団」には、国際交流コーディネーターが在席しており、通訳ボランティアの派遣もしています。

【幼稚園・認定こども園・保育所等】

- 園内委員会を設置し、特別な支援を必要とする子どもへの支援方針を検討しましょう。
 - ・園内委員会の役割の明確化と支援までの手順の確認。
- 特別支援教育担当の園分掌への位置付けを行いましょ。
 - ・園内の支援体制整備 ・外部の関係機関との連絡調整 ・保護者との連絡窓口
- 関係機関・専門機関と連携し、支援の充実を図りましょ。
 - (教育関係機関、福祉関係機関、医療機関等)
- 保護者と連携しながら教育的ニーズを把握し、園全体で組織的な支援を行いましょ。
- 子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、合理的配慮の提供や基礎的環境整備を充実ましょ。
- 日本語の理解に不安がある外国籍等の子どもについては、個々の実態に応じ、指導内容の工夫を組織的かつ計画的に行いましょ。

【小学校等】

- 支援会議等を通じて、園で実施した適切な支援が着実につながるようにましょ。

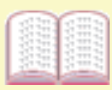


「園内委員会」と「特別支援教育担当」

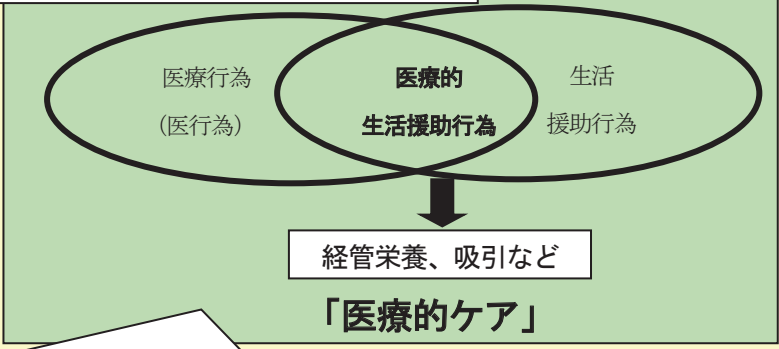
「園内委員会」とは
 特別な教育的支援を必要とする幼児の実態把握を行い、抱える課題について全職員で共通理解のもとに、園全体でより適切な指導・支援をするための園内組織です。



「特別支援教育担当」とは
 特別な教育的支援を必要とする幼児に適切な支援を行うために園内の支援体制を整えるとともに外部の教育・医療・福祉・労働等の関係機関との連絡調整及び保護者に対する学校の窓口の役割を担う中心的存在です。



園・学校における医療的ケアの推進



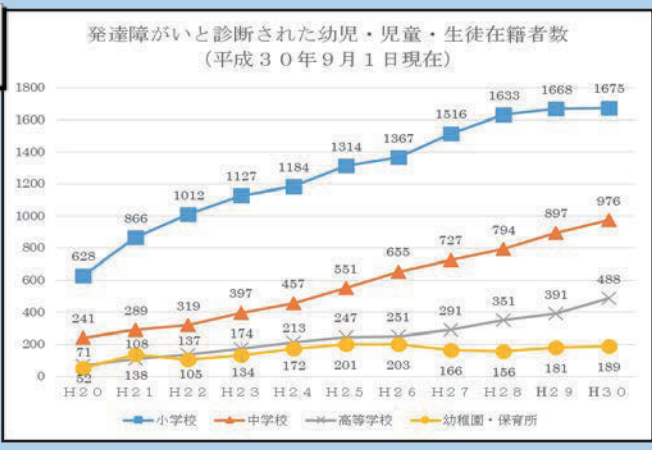
鳥取県立特別支援学校で実施している医療的ケアは、日常的に家庭で行われている医療的生活援助行為で、学校でも実施可能であると判断された行為です。

鳥取県の特別支援学校における医療的ケアリーフレット

子どもたちの豊かな学びを支える医療的ケア

家庭生活で実施している医療的ケアを受けることができれば、学校で学ぶことができます。鳥取県では全ての子どもたちの豊かな学びを目指して、学校における医療的ケアを推進しています。

鳥取県教育委員会



施策

鳥取県では、平成12年度（幼児については、平成16年度）から発達障がいと診断された幼児・児童・生徒数を調査しています。調査結果を踏まえ、LD等専門員の配置や研修会の実施など、課題に応じた施策の充実に努めています。

施策 教育相談の推進

LD等専門員

発達障がいのある又は可能性のある幼児児童生徒及びその在籍園・校の教職員、保護者等への相談活動や理解啓発に当たるとともに、園・小学校等へ計画的に出かけて特別支援教育の校内（園内）支援体制の機能の充実に向けて支援を行います。

- 発達障がい等により特別な教育的支援を必要とする児童等の指導・支援に関する助言
- 校内（園内）支援体制の充実に向けた助言

巡回相談

担当区域内の園・小学校等へ年1～2回の相談活動を行います。

依頼相談

担当区域内の幼稚園、園・小学校等からの依頼に応じて、相談活動を行います。

県内に14名配置（東部地区6名、中部地区3名、西部地区5名） ※H31.4.1現在

基本方針（３）特別な配慮を必要とする子どもへの教育の充実

目標② 個別の教育支援計画等の作成・活用及び関係機関との連携

長期的な視点に立ち、特別な支援を必要とする子どもの実態把握や教育・保育の方針等について話し合い、関係機関との連携を図り、切れ目のない指導・支援の充実を進めます。

【推進のための具体的な取組】

【県・県教育委員会】

- 特別支援教育に関する研修の実施
- 特別支援学校のセンター的機能の充実やLD等専門員の活用の推進
- 個別の教育支援計画、個別の指導計画等の作成・活用の推進
- 関係機関や就学先との連携強化
- 療育や就園・就学についての情報提供や相談支援体制の整備

【市町村・設置者】

- 研修会を開催しましょう。
 - ・個別の教育支援計画、個別の指導計画等の作成・活用の方法 等
- 地域における特別支援教育に対する理解啓発を進めましょう。
- 特別な支援を必要とする子ども及びその保護者への相談支援体制を充実させましょう。
 - ・就学相談における情報提供
- 指導・支援に係る指導助言及び関係機関との連携を進めましょう。
- 支援会議の場を設け、個別の教育支援計画を用いて、本人・保護者・関係機関とも連携した接続や移行に取り組みましょう。

【幼稚園・認定こども園・保育所等】

- 特別な支援を必要とする子どもの実態把握に努めましょう。
- 園内全保育者等の共通理解や情報交換を行いましょ。
- 園内研修、事例検討会等を実施し、保育者等の資質向上に努めましょう。
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画等を作成し、活用しましょう。
- 保護者との信頼関係を築き、全保育者等による組織的な支援を充実させましょう。
- 切れ目のない支援を行うために、園内及び就学先への引継ぎを丁寧に行いましょう。

【小学校等】

- 支援会議等を通じて、園で実施した適切な支援がつながるようにしましょう。

施策

特別支援学校のセンター的機能

東部地区

- 県立白兔養護学校（知的障がい）
- 県立鳥取養護学校（肢体不自由・病弱）
- 県立鳥取聾学校（聴覚障がい）
- 県立鳥取盲学校（視覚障がい）
- 鳥取大学附属特別支援学校（知的障がい）

県内の特別支援学校は、それぞれの専門性を生かし、地域のニーズに応えるため、教育相談や訪問による研修等を行っています。

西部地区

- 県立米子養護学校（知的障がい）
- 県立皆生養護学校（肢体不自由・病弱）
- 県立皆生養護学校皆浜分校（病弱）
- 県立鳥取聾学校ひまわり分校（聴覚障がい）

中部地区

- 県立倉吉養護学校
（知的障がい・肢体不自由）
- 県立琴の浦高等特別支援学校（知的障がい）

H31.4.1現在



「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」

「個別の教育支援計画」は、特別な支援を必要とする幼児児童生徒等の一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えの下、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な教育的支援を行うことを目的としています。

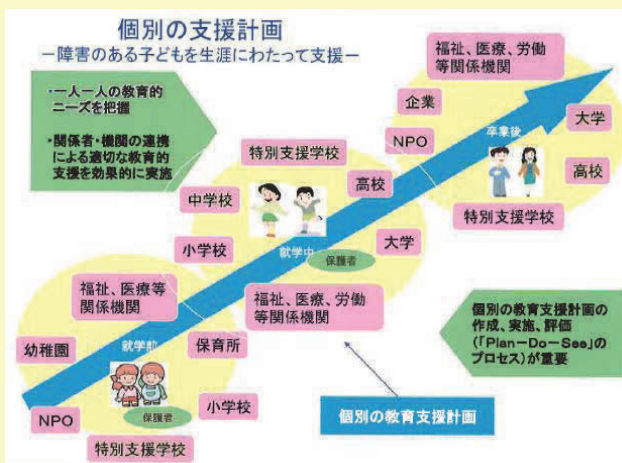
また、この教育的支援は、教育のみならず、福祉、医療、労働等の様々な側面からの取組が必要であり、関係機関・関係部局との密接な連携協力を確保することが不可欠です。

【作成の対象】

特別な支援を必要とする幼児児童生徒
（※「特別な支援を必要とする」とは、学習上や生活上において課題や困難さがあり、教育的な支援が必要であること。）

【作成の内容】

- ① 一人一人のニーズ
- ② 支援の目標
- ③ 支援内容
- ④ 支援者・機関
- ⑤ 評価・改訂・引継ぎ



出典：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

◇ 「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」

「個別の教育支援計画」

- ☆長期的な視点に立って幼児期から学校卒業後までの一貫した支援を行うもの
- ☆家庭や福祉、医療、労働等の関係機関と連携して取り組むもの
- ☆学校が中心となって作成するもの
- ☆2～3年を目安に作成

「個別の指導計画」

- ☆教育課程を具現化したもの
- ☆学校等での指導における一人一人の指導目標や指導内容・方法等の明確化を図るもの
- ☆学校が責任をもって作成するもの
- ☆1年ごとに作成

「個別の指導計画」は、保護者の同意の有無にかかわらず、作成できます。
長期（1年間）目標を達成するためのステップとして、短期目標を設定し、具体的な支援等を記載します。

「個別の教育支援計画」を踏まえて、「個別の指導計画」を充実していくという関係になります。



「個別の教育支援計画」を活用した引継ぎ

【引継ぎの必要性】

それまで受けてきた支援を引継ぎ、一貫した支援を行うことで、自立や社会参加に向けた取組につながります。

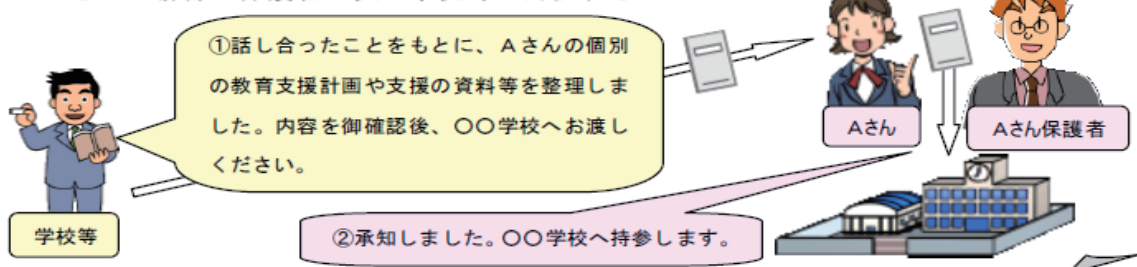
【引継ぎの主体者】

本人・保護者が主体となり、次の学校等へ持参し、必要な支援を引き継ぎます。場合によっては、あらかじめ本人・保護者の了解を得て学校等が行う場合もあります。

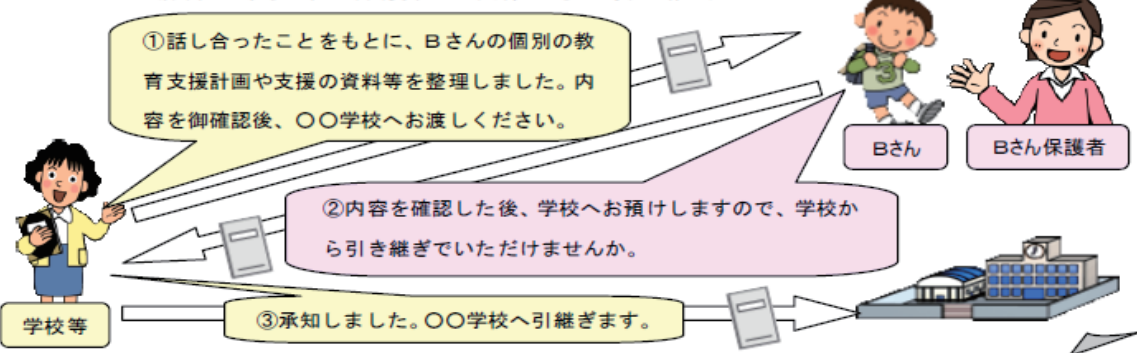
【個人情報の取扱い】

個人情報が漏洩したり滅失したりすることがないように、適切な管理を行うことが必要です。各自治体における個人情報保護条例等の規定に基づき、適切な管理や取扱いを行います。

< Aさんの場合：保護者が次の学校等へ持参する >



< Bさんの場合：学校等が保護者の了解のもと引き継ぐ >



POINT

【幼稚園や保育所等から就学先への引継ぎについて】

幼稚園や特別支援学校幼稚部、保育所、福祉機関等において、個別の教育支援計画やそれに類似した計画を作成している場合には、必要な関係資料を取りまとめ、保護者と共通理解のもと、就学先に引継ぎを行いましょ。また、移行支援計画書や移行支援シート等を作成し、就学後に学校が作成する個別の教育支援計画のもととなるものとして、就学先に引継ぐ方法もあります。

生育歴や療育歴は非常に重要な情報ですので、早期から保護者との合意形成を図りながら移行をスムーズに行うことが大切です。

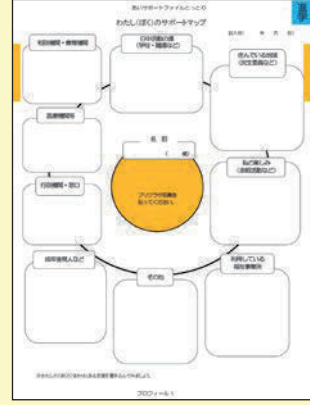
「個別の教育支援計画」を作成する上で参考となる資料

本人・保護者・学校等のための個別の教育支援計画～作成・活用マニュアル～



様式例と記入のポイントを示しています。

あいサポートファイル (作成:「鳥取県手をつなぐ育成会」 発行:鳥取県福祉保健部 ささえあい福祉局障がい福祉課)



「あいサポートファイルとっとり」のメリット

- 1 障がいのある人の成長過程、支援内容など、障がいのある人の過去から現在にかけての情報の整理が可能となり、詳細かつ正確な情報が伝わります。
- 2 保護者が病院、学校、福祉施設等で同じ情報を繰り返し行わなければならない状況の改善につながります。
- 3 保護者の介助・介護力が低下した時、または死亡した時などに、成年後見人や支援者に対し必要な情報提供ができます。

支援をつなぐために市町村が作成した資料

「就学移行支援モデルプログラム」として、園内支援担当者の役割や関係機関との連携の在り方等必要な情報がまとめられています。就学に向けての準備と、就学後のフォローが計画的に進められ、小学校等へスムーズに適応できるようしています。

特別な支援を必要とする子どものための「就学移行支援モデルプログラム」(図1) 一部抜粋

*このプログラムの説明は、P4以降に記載しています。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
幼児小連携 第1回幼保小連絡会 (幼保小連携の年間の見直し・入生への様子)	運動会 学校公開日	幼保小交流会 (幼保小連携年間の見直し・入生への様子)	小学校教員による保育体験	夏休みの作品発表	就学時健康診断	学習発表会	幼保小意見交換会	新1年体験入学	入学前保護者説明会 第2回幼保小連絡会(幼保小連携の年間の見直し)	卒業式 幼保小引き継ぎ会	入学式 入学式を迎える会 第1回幼保小連絡会(幼保小連携の年間の見直し)	運動会 学校公開日 小学校区・校務委員会	幼保小連携	幼保小連携	幼保小連携	
特別な支援を必要とする年長児	運動会 学校公開日	幼保小交流会 (幼保小連携年間の見直し・入生への様子)	小学校教員による保育体験	夏休みの作品発表	就学時健康診断	学習発表会	幼保小意見交換会	新1年体験入学	入学前保護者説明会 第2回幼保小連絡会(幼保小連携の年間の見直し)	卒業式 幼保小引き継ぎ会	入学式 入学式を迎える会 第1回幼保小連絡会(幼保小連携の年間の見直し)	運動会 学校公開日 小学校区・校務委員会	幼保小連携	幼保小連携	幼保小連携	
特別な支援を必要とする年長児の保護者	運動会 学校公開日	幼保小交流会 (幼保小連携年間の見直し・入生への様子)	小学校教員による保育体験	夏休みの作品発表	就学時健康診断	学習発表会	幼保小意見交換会	新1年体験入学	入学前保護者説明会 第2回幼保小連絡会(幼保小連携の年間の見直し)	卒業式 幼保小引き継ぎ会	入学式 入学式を迎える会 第1回幼保小連絡会(幼保小連携の年間の見直し)	運動会 学校公開日 小学校区・校務委員会	幼保小連携	幼保小連携	幼保小連携	
移行支援の流れ (園、学校へ働き)	子どもの関心する情報の収集(専門機関・福祉との連携)	保護者と学校見学会	医療機関に診断書を依頼	就学時健康診断前に必要の診断書を依頼	教育委員会へ資料作成(11月上旬~12月)	地域の学校教員が園内・園外へ関心・調査と助言(園からの依頼による)	個別の教育支援計画作成	個別の教育支援計画作成	個別の教育支援計画作成	個別の教育支援計画作成	個別の教育支援計画作成	個別の教育支援計画作成	個別の教育支援計画作成	個別の教育支援計画作成	個別の教育支援計画作成	個別の教育支援計画作成